

大学等名：津田塾大学

テーマ：テーマⅣ（長期学外学修プログラム（ギャップイヤー））

本取組は、本学が培った女子リベラルアーツ教育の伝統を、平成24年の文部科学省中央教育審議会答申が求める「大学教育の質的転換」に重ね合わせ、留学、インターンシップやボランティア等の学外学修の機会をより多くの学生に与えようというものである。

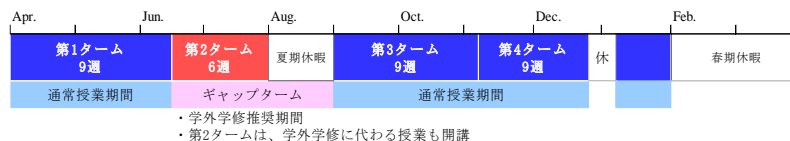
リベラルアーツ教育の中に学外学修活動をバランスよく取り入れ、その相乗効果をマキシマイズし、かつそれをより多くの学生が享受できるようにすべく、以下の改革事業を段階的に実施した。

Tsuda Vision 2030 —変革を担う、女性であること—

カリキュラム改訂（2017年度適用開始）

学内学修（正課授業）に支障を及ぼすことのない学外学修実施環境を実現

学年暦改定（2017年度導入）



学外学修センター（Off-Campus Learning Center）によるサポート

learning support	事前指導、事後指導、学修支援システムの開発、単位認定、実施サポート、安全サポート
activity incubator	学生、教員、企業等のアイデアを適切な学外学修活動として孵化させる仕組み
activity portal	学外学修活動に関するワンストップサービスWebサイト
activity library	多様な学外学修活動の記録を蓄積・共有
publicity	学生への周知一般への周知
opportunities intersection	学外学修を行いたい学生、受け入れたい外部組織が出会う場
supporters network	学外サポーターとの連絡協議会受入先の安定確保・品質管理と新規獲得

**THE世界大学ランキング
日本版で私立女子大として
3年連続1位を獲得**

本取組

カリキュラム改訂

2017-

「インターンシップ」、「サービスマーケティング」、「インディペンデントスタディ」学生の自主性を尊重しつつ、学びの質を保障するシステムを構築し単位認定

学外学修センター設置

2016-

Off-Campus Learning Center
学外学修活動への組織的サポート、学外学修情報の蓄積・共有、学外学修関連サービス・業務の集約

学年暦改定

2017-

クォーター制によるギャップタームにより長期の学外活動や海外での活動を可能に

2015年度事業開始時点

多様で特色のある学外学修活動が行われ、支援制度も存在するが、以下の問題があった。

- ・ 学年暦の制約により長期の学外学修活動が困難
- ・ 参加する学生が一部の学生に限られている
- ・ 組織的なサポートが不十分
- ・ サービスや業務が多く部署に分散
- ・ 単位認定する仕組みが不十分

【事業の成果】

	H27年度 (実績値)	R11年度 (目標値)	R1年度 (実績値)
長期学外学修プログラムに参加する学生の割合	0.3%	25%	15%
学生の授業外学修時間	—	21時間	15.3時間
学生が企画する活動数	7件	20件	33件

2017年度の学年暦改定以降、3年間で800人を超える学生が海外サマースクール、インターンシップ、ボランティアなどの学外学修に参加した。海外にも34か国・地域に約240人の学生が渡航し、ギャップタームを有効に使うことで自立的に学ぶことができた。国内においても、多くの民間企業等で受け入れが実現した。学外学修センターはプログラム企画、情報収集、危機管理及び卒業生ネットワーク構築を担い、事前事後学習を通して学生の成長を支援した。

本事業は、本学の掲げた「Tsuda Vision 2030」を促進させ、大学の評価を高めることに貢献した。